名古屋第二赤十字病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

専門研修基幹施設である名古屋第二赤十字病院は，救命救急センターを有し多くの救急患者を受け入れている．多様な救急疾患や外傷患者の診療を行ううえで，麻酔科医が果たす役割は非常に広範囲である．救急外来での救命処置，緊急手術の術前，術中，術後管理のみでなく，麻酔科医が管理するclosed ICU(general ICU,PICU)で重症患者の治療も行っている．本プログラムでは基幹施設のこのような特性を生かし，周術期の麻酔管理やペインクリニック，緩和医療に加え，広く救急，集中治療領域のスキルをも身につけた付加価値の高い麻酔科専門医を育成する．専門研修連携施設である大学病院，小児専門病院では，基幹施設では経験できない特殊な手術の麻酔や多様な小児手術の麻酔，小児病院におけるPICUを経験する．

3. <u>専門研修プログラムの運営方針</u>

- 研修の初年度は専門研修基幹施設である名古屋第二赤十字病院で研修を行い，その間の２ヶ月間は救急部で救急診療の研修を行う．
- 研修の2~3年度に専門研修連携施設での研修を行う．研修先と期間は各専攻医の希望を考慮し決定する，トータルで1～1.5年間となるようにローテーションを組む．
- 集中治療専門医を目指す専攻医に対しては，4年度において３ヶ月間のICU専従期間を設ける．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表

<table>
<tr><td></td><td>初年度</td><td>２年度</td><td>３年度</td><td>４年度</td></tr>
<tr><td>４月</td><td rowspan="4">名二日赤</td><td rowspan="6">名二日赤</td><td rowspan="6">大学病院
または
小児病院等</td><td rowspan="6">名二日赤</td></tr>
<tr><td>５月</td></tr>
<tr><td>６月</td></tr>
<tr><td>７月</td></tr>
<tr><td>８月</td><td rowspan="2">名二日赤
救急部</td></tr>
<tr><td>９月</td></tr>
<tr><td>１０月</td><td rowspan="6">名二日赤</td><td rowspan="6">大学病院
または
小児病院等</td><td rowspan="6">名二日赤</td><td rowspan="3">名二日赤
ICU専従</td></tr>
<tr><td>１１月</td></tr>
<tr><td>１２月</td></tr>
<tr><td>１月</td><td rowspan="3">名二日赤</td></tr>
<tr><td>２月</td></tr>
<tr><td>３月</td></tr>
</table>

週間予定表

名古屋第二赤十字病院ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	ICU	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	ICU	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

名古屋第二赤十字病院　麻酔・集中治療部での症例検討会，勉強会など
　麻酔症例カンファレンス（平日毎日）
　他診療科を交えたICU入室患者のカンファレンス（毎日）
　多職種によるICU入室患者のカンファレンス（毎日）
　科内での症例検討会（１回／月）
　科内での抄読会（1回／週）
　若手対象の勉強会（１回／週）
　放射線科との合同勉強会（１回／月）など
学会・研究会等への参加
　積極的に参加，発表することを奨励している．旅費の支給有り．
全職種対象施設内講習会
　医療安全講座，感染対策講習会，臨床倫理講習会など定期的に開催
自己学習の環境
　On line journal，On line textbook，UpToDate，各種文献検索，e-learning
　シミュレーションセンターなど
専門研修プログラム全体でのカンファレンス
　今後計画の予定

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

名古屋第二赤十字病院

研修プログラム統括責任者：寺澤篤
専門研修指導医：高須宏江（麻酔、集中治療）
　　杉本憲治（麻酔、集中治療、国際救援）
　　棚橋順治（麻酔、集中治療、緩和、ペインクリニック）
　　平手博之（麻酔、集中治療）
　　寺澤篤（麻酔、集中治療）
　　田口学（麻酔、集中治療）
　　稲垣友紀子（麻酔、集中治療）
　　山崎諭（麻酔、集中治療）
　　古田敬亮（麻酔、集中治療）
　　名原功（麻酔、集中治療）
　　井上芳門（麻酔、集中治療、国際救援）

藤井智章（麻酔、集中治療）
末永大介（麻酔、集中治療、緩和、ペインクリニック）
野崎裕介（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号：632

施設の特徴：

1. 麻酔科常勤医は 25 名在籍し市中病院としては充実しており, 全身麻酔は全て麻酔科医が行う体制になっている．外科系のほぼすべての科の手術があるため専門医研修で必要とされている特殊症例の麻酔件数はすべて自院で経験可能である．
2. General ICU，PICU を麻酔科医が管理しており（closed ICU)，集中治療の研修が可能である．日本集中治療医学会の集中治療専門医研修施設である。
3. 救命救急センターを有しており，救急患者数は近隣諸施設の中でもトップクラスである．外傷その他各診療科の緊急手術や，敗血症，重症呼吸不全等 ICU での治療を必要とする重症救急患者の症例数も豊富で充実した研修が可能である．ICU 入室患者のうち半数以上が救急外来からの直入患者である．
4. 重症救急患者の緊急手術では，救急外来または ICU での術前管理，術中麻酔管理，ICU での術後全身管理をシームレスで学ぶことができる．
5. 日本心臓血管麻酔学会の心臓血管麻酔専門医認定施設であり，新生児から成人までの心臓・大血管手術の症例数も豊富で，JB-POT 合格者も多数輩出している．
6. 末梢神経ブロック，ペインクリニック，緩和医療の研修も可能である．
7. 日本赤十字社に所属する病院として国際救援（ICRC)，国内救護，DMAT，災害医療等に熱心に取り組み，麻酔科医もこれらの活動に積極的に参加している．
8. Infection control team, Nutrition support team, Rapid response system, 緩和ケアチーム，倫理コンサルテーションチーム，など病院横断的な活動にも麻酔科医が積極的に関与している．

②　専門研修連携施設A

名古屋市立大学病院

名市大麻酔科ウェブサイト URL http://www.ncu-masui.jp/

研修実施責任者：祖父江和哉 kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：	祖父江和哉	（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
	田中　基	（麻酔，周産期麻酔）
	杉浦健之	（麻酔，ペインクリニック）
	草間宣好	（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
	徐　民恵	（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
	田村哲也	（麻酔，集中治療）
	加古英介	（麻酔，集中治療，ペインクリニック，周産期麻酔）
	太田晴子	（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
	加藤利奈	（麻酔，ペインクリニック）
	井口広靖	（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
	藤掛数馬	（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
	仙頭佳起	（麻酔，集中治療）
専門医：	上村友二	（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
	横井礼子	（麻酔，周産期麻酔）
	中西俊之	（麻酔，集中治療）
	青木優佑	（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
	長谷川達也	（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
	永井　梓	（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

麻酔科認定病院番号 55

施設の特徴：

教育研究機関であるとともに、高度先進医療を提供することで地域医療に貢献している。
麻酔科には教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し、幅広い分野での研修環境が整っている。

- 手術麻酔では小児から成人まで豊富な症例がある。心臓血管麻酔専門医・日本周術期経食道心エコー認定医、小児麻酔認定医、区域麻酔認定医が複数在籍する。

・ 集中治療は麻酔研修と並行して研修可能である。集中治療専門医が多数在籍し、麻酔科主導による closed-ICU を運営している。PICU を併設し、小児集中治療も研修できる。
・ 集学的痛みセンター（いたみセンター）を併設し、ペインクリニック専門医が複数在籍する。神経ブロックなどの従来のペインクリニック診療に加え、多職種による集学的診療を行なっており、希望に応じて研修可能である。
・ 無痛分娩センター（2018 年に全国大学病院で初の施設として開設）を併設し、麻酔科管理による硬膜外分娩（無痛分娩）を実施している。ハイリスク妊婦症例も多く、硬膜外分娩以外にも専門的な周産期麻酔の研修が可能である。
・ 救急科との連携により、希望に応じて救命救急センターでの研修が可能である（救急科専門医在籍、救命救急センター指定）。

その他、学習会・学会発表、論文作成においても、豊富な指導医陣による教育体制が充実している。病院併設のシミュレーションセンターでは年数回のハンズオン講習や各種セミナーを実施しており、シュミレーターを用いた経食道エコーや気道確保等の練習も随時可能である。

名古屋大学医学部附属病院

研修実施責任者：　西脇　公俊

専門研修指導医：　西脇　公俊（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
荒川　陽子（麻酔）
柴田　康之（麻酔、ペインクリニック）
鈴木　章悟（麻酔、集中治療）
関口　明子（麻酔）
浅野　市子（麻酔、ペインクリニック）
新屋　苑恵（麻酔、ペインクリニック、、心臓血管麻酔）
安藤　貴宏（麻酔、ペインクリニック）
中村のぞみ（麻酔）
尾関　奏子（麻酔、集中治療）
平井　昂宏（麻酔、集中治療）
赤根亜希子（麻酔、ペインクリニック）

専門医：　木村　怜史（麻酔、ペインクリニック）
田村　高廣（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
絹川　友章（麻酔、ペインクリニック）
佐藤　威仁（麻酔、心臓血管麻酔）
駒場　智美（麻酔）
神野　真穂（麻酔、ペインクリニック）
二宮菜奈子（麻酔）

藤井　　祐（麻酔、心臓血管麻酔）
横山祐太郎（麻酔、集中治療）
前田　　翔（麻酔、集中治療）
天野　靖大（麻酔、集中治療）
森本　典行（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38

特徴：

肝移植・腎移植・心臓血管外科手術を含む年間6,500件以上の麻酔科管理症例を持つ名古屋大学医学部附属病院麻酔学講座では、極小未熟児から超高齢者を対象にした手術麻酔に加え、日本では数少ない麻酔科医を中心としたclosed ICUでの集中治療やペインクリニックなど、各領域を極められる環境を整えています。2017年には心臓移植手術が始まり、将来的には小児心臓外科手術も始まる予定です。

藤田保健衛生大学病院

研修プログラム統括責任者：西田　修

研修実施責任者：西田　修（麻酔、集中治療）

専門研修指導医：柴田　純平（麻酔，ペイン、集中治療）
山下　千鶴（麻酔、集中治療）
幸村　英文（麻酔、集中治療、救急）
中村　智之（麻酔、集中治療）
戸田　法子（麻酔）

専門医：　栗山　直英（麻酔、集中治療）
原　嘉孝　（麻酔、集中治療）
新居　憲（麻酔）
前田　舞　（麻酔）
秋山　正慶（麻酔、集中治療）
小松　聖史（麻酔、集中治療）
福島　美奈子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：104

施設の特徴：

１．一般的な疾患からロボット支援下手術、移植手術（生体肝移植、膵腎同時移植、膵単独移植、腎移植）、心臓血管外科手術（TAVIを含む）まで幅広い研修が可能。

２．全年齢・全科対応のgeneral ICUをclosed ICUとして麻酔科医が管理しており、急性血液浄化療法、経空腸栄養、急性期呼吸リハビリを3本柱として重症患者に対する集中治療の研修が可能である。
３．麻酔と集中治療を共に「侵襲制御」と考え、術後ICU管理も含めたシームレスな術中・術後の全身管理を研修可能。
４．院外からは、重症小児救急、心臓血管外科疾患の救急、体外式膜型人工肺（ECMO）による治療を要する重症呼吸不全、重症肝不全を受け入れており、これら超重症救急患者に対する充実した研修が可能である。
５．超音波ガイド下末梢神経ブロック、ペインクリニックの研修も可能である。
６．当科を中心にMET（Medical Emergency Team）を構成し、院内救急を対応するとともに、Infection control teamやNutrition support team、医療安全など、院内の横断的な組織にも麻酔科医が積極的に関与している。

名古屋第一赤十字病院

研修実施責任者：　横田　修一
専門研修指導医：　横田　修一（麻酔、ペインクリニック）
小栗　幸一（麻酔）
冨田　貴子（麻酔）
北尾　　岳（麻酔、心臓血管麻酔）
内山　沙恵（麻酔）
杉田衣津子（麻酔）
専門医：　村瀬　洋敏（麻酔）
中島　万志帆（麻酔）
柴田　　黎（麻酔）
土師　初美（麻酔）
片岡万紀子（麻酔、心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：420
特徴：
名古屋市西部の中核病院であり、三次救命救急センター・総合母子周産期医療センターも併設されているため、一般救急、産科救急、新生児の麻酔研修症例が豊富です。心臓麻酔については、症例数は県内有数であり、ハイブリッド手術室も完備しているため、最先端のTAVIの麻酔も日常的に行っております。JB-POT合格者も多数在籍しており、術中の経食道心エコーの指導を熱心に行っております。また末梢神経ブロック専用のエコー機器を4台完備、エコーガイド下末梢神経ブロックも積極的に行っています。

あいち小児保健医療総合センター

研修実施責任者：　宮津　光範
専門研修指導医：　宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療）
山口由紀子（小児麻酔）
加古　裕美（小児麻酔）
小嶋　大樹（小児麻酔、シミュレーション医学）
専門医：　渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、小児救急）
佐藤　絵美（小児麻酔）
北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）
一柳　彰吾（小児麻酔、QI）
谷　　大輔（小児麻酔、医用工学）
武田　勇毅（小児麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：1472
特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。
＜当センターの強み＞

1. 国内および国外小児病院出身の小児麻酔認定医から直接指導が受けられる。北米式の先進的な麻酔シミュレーション、レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。
2. 小児麻酔技術の習熟に最適な泌尿器科や眼科の短時間手術症例が多く、短期間で効率よく経験値を上げることができる。仙骨硬膜外麻酔や末梢神経ブロックにも力を入れている。
3. 当センターは、小児心臓病センターを併設した心臓血管麻酔専門医認定施設である。近年、新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が激増している。小児TEEに習熟した心臓血管麻酔専門医の指導を受けながら心臓麻酔研修が可能である。心臓外科医が増員されたため、小児心臓手術が同時に２列並列で実施可能である。LVAD装着および管理を開始する予定である。
4. 東海地方最大規模となる16床のclosed-PICUは、よく訓練された専属PICUチームにより管理されている。日本最大級のECMO症例数を誇る小児ECMOセンター機能を有しており、その治療成績は極めて良好である。希望があればPICU研修も可能である。
5. 独立した小児救急チームが運営する小児救命救急センターを併設しており、ドクターカーを用いた迎え搬送を運用している。屋上ヘリポートを利用したドクヘリ搬送受入も積極的に行っている。

地方独立行政法人大阪府立病院機構　大阪母子医療センター

研修実施責任者：橘　一也
専門研修指導医：橘　一也（小児麻酔・産科麻酔）
竹下　淳（小児麻酔・産科麻酔）
山下　智範（小児麻酔・産科麻酔）
竹内　宗之（小児集中治療）
川村　篤（小児集中治療）
専門医：　濱場　啓史（小児麻酔・産科麻酔）
藤原　愛（小児麻酔・産科麻酔）
中村　さやか（小児麻酔・産科麻酔）

認定病院番号：260
特徴：
小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし，専門性の高い麻酔管理を安全に行っている．代表的な疾患として，胆道閉鎖症，胃食道逆流症，横隔膜ヘルニア，消化管閉鎖症，固形腫瘍（小児外科），先天性水頭症，もやもや病，狭頭症，脳腫瘍，脊髄髄膜瘤（脳神経外科），複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科），口唇口蓋裂（口腔外科），小耳症，母斑，多合指(趾)症（形成外科），分娩麻痺，骨欠損，多合指(趾)症，膀胱尿管逆流症，尿道下裂，総排泄腔遺残症（泌尿器科），斜視，未熟児網膜症（眼科），中耳炎，気道狭窄，扁桃炎（耳鼻科），白血病，悪性腫瘍（血液・腫瘍科），無痛分娩，双胎間輸血症候群（産科）などがある．さらに，小児では消化管ファイバーや血管造影，MRI などの検査の麻酔・鎮静も，麻酔科医が行っている．集中治療科での研修も積極的に行っている．

③　専門研修連携施設B

愛知医科大学病院

研修実施責任者：藤原　祥裕
専門研修指導医：
藤原　祥裕（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
畠山　登（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
藤田　義人（麻酔、集中治療、救急医療）
伊藤　洋（麻酔、集中治療）
佐藤　祐子（麻酔、ペインクリニック）
橋本　篤（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
鉄　慎一郎（麻酔、救急医療）

髙柳　博子（麻酔、集中治療）
田中　久美子（麻酔）
青山　寛子（麻酔）
専門医：
丹羽　英美（麻酔）
鹿田　百合（麻酔）
大野　泰昌（麻酔）

日本麻酔科学会認定病院取得（認定病院番号　99）
日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本集中治療医学会専門研修施設

特徴：
術前外来における患者評価から術中の麻酔管理、術後の集中治療管理まで一貫した周術期管理を研修できます

埼玉県立小児医療センター

〒330-8777　埼玉県さいたま市中央区新都心１番地２ TEL：048-601-2200
(URL：https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/)

研修実施責任者：蔵谷　紀文
専門研修指導医：蔵谷紀文（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉（麻酔・小児麻酔）
佐々木　麻美子（麻酔・小児麻酔）
大橋　智（麻酔・小児麻酔）
石川 玲利（麻酔・小児麻酔）

石田 佐知（麻酔・小児麻酔）
駒崎真矢（麻酔・小児麻酔）

特徴：
平成 28 年末にさいたま新都心に新設移転しました。研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能です。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2020 年 9 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは,名古屋第二赤十字病院website,電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である.

名古屋第二赤十字病院　website: http://www.nagoya2.jrc.or.jp/
〒466-8650　愛知県名古屋市昭和区妙見町２－９
TEL：052（832）1121　FAX：052（832）1130
事務局
教育研修推進室　亀尾　澪
E-mail：education@nagoya2.jrc.or.jp
または
本プログラム統括責任者
第一麻酔・集中治療部長　寺澤　篤
E-mail：atsu@nagoya2.jrc.or.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄

与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

1年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

④ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本

専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．